

経営学特別講義「企業倫理論」(Business Ethics)

担当者：岡本 享二

前期

火曜日

1 時限

[主題・目標・授業案内]

企業倫理の確立は外部からは見えにくいものです。特に売上高や利益が順調に推移しているときは見過ごされがちです。大災害が起きたときや、最初は小さな不祥事からその企業の実態が白日の下にさらされて行きます。その結果、安全や社会への思いやりが欠落していたことが判明し、愕然とさせられる事件が後を絶ちません。一方で細やかな対応策と盤石なマネジメント・システムで企業倫理を守っている企業があります。その違いはどこから来るのでしょうか。

企業倫理を学ぶに際して、コンプライアンスやガバナンスを追究して社内の改革に取り組むことは欠かせません。しかし、それ以上に企業倫理が厳しく求められるようになった時代の変化と、社会からの要請を知ることが大切です。具体的にはグローバル化による地球規模での環境劣化や、発展途上国のみならず、先進諸国でも最近顕在化してきた社会問題の発生の背景として、企業が与えてきた影響を理解することです。また、高度に発達した ITC が企業倫理の確立にどのように影響してきたかを国際的な視座で学ぶことも重要です。

この講義では上記の様な幅広い知識と思索をお伝えしています。不祥事の事例研究や失敗事例の羅列に終わらないよう配慮をしています。21 世紀に入って、欧米のビジネススクールでは企業倫理や企業の社会的責任(CSR)のあり方が大きく取り上げられています。従来の科目が企業のための攻めの学問だったとすれば、企業倫理論は企業の根本を揺るがす、避けて通れない時代の変化と社会の要請による最新の学問です。ビジネスを学ぶ皆さまに聴いていただきたい講座です。

[講義内容]

授業ではご自身の考えをまとめていただくことを重視しています。講義でディスカッションをすると、あの本にはこういうことが載っていたとか、こういうことを知っているという話になりがちですが、これは日本の教育の悪い一面かもしれません。教科書を読めば分かることや授業で学んだことを話すだけではなく、それを知った上で、あなたならどういう解決策があるか、あるいはどういうところに問題があるか、社会経験を生かしながらディスカッションを重ねるのがこの講座の特徴です。限られた範囲の専門領域の知識を身につけている人は大勢いますが、専門領域を学ぶだけではなかなか解決策は生み出せません。学際性を理解し、鳥瞰的視座と国際性を持ち合わせて、自ら考え貫くことで受講生と共に解決策を探ります。

[スケジュールの概要] (適宜変更します)

- (1) オリエンテーション:「授業の概要」「企業倫理とは何か」
- (2) 最近の企業不祥事とその背景
- (3) 「不祥事企業、その後の影響」と「社会の企業に対する見方の変化」
- (4) 企業倫理のあり方に成功している企業事例
- (5) 日米欧に見る企業倫理感の相違点と各国の対応
- (6) 現代の社会問題と企業(倫理)のあり方
- (7) グローバル化による企業倫理の動向と変革
- (8) 企業倫理と「コンプライアンス」「ガバナンス」
- (9) 企業倫理と「危機管理」「環境対応」
- (10) 企業倫理とホリスティックなマネジメント・システムの重要性
- (11) 企業倫理の根源と根本的な対応策
- (12) 企業倫理とグローバル化の弊害
- (13) 企業倫理と哲学、そして個々人の生活信条へ

[教科書]

「進化する CSR」	岡本享二著	JIPM ソリューション
「CSR 入門」	岡本享二著	日経文庫
「次世代 CSR と ESD」	岡本享二(共著)	ぎょうせい

[成績評価の方法]

出席日数と授業中の発表・討論、課題レポートを重視。
配点は出席点(50%)、発表・討論・課題レポート(50%)。
期末試験はしないで総合的に評価します。

[前提知識]

社会人としての在職経験が望まれる(必須ではない)。

[参考文献]

授業中に適宜紹介します。